

## SMGLレポート2810

有事のルール「IoT…インダストリー4.0…？」 [迫りくる法改正と時代変化の荒波-32]

●ネット環境が構築され始めてから生活の隅々に及ぶまで、凡そ20年余りを要しました。その間、**当初のスピード感が尚「日進月歩」の域**だったとすれば、ハードの処理能力が飛躍的に高まり、ソフト開発者の想像の世界が疑似現実化＝VR＝してしまう程進化した現在では、**今やそれは「秒進分歩」でさえなく、「ナノ進ピコ歩」とでも表現したくなる程の、物事の適否や正誤、軽重、難易等の答えが、ICTを介して間髪を入れず導き出される瞬速の領域**に突入している様に感じられます。そして、その次に控えるのは恐らく、**間断なく決断を求められる速断即決のステージ**でしょう。それでも未だ我々には、**意思を介在させる余地が辛うじて残される**かもしれません。が、問題は、その先なのです。例えば、スマホアプリから発信されたシグナルに従い、レンタカーステーションの所定位置から発進した自動運転車が、ユーザーの玄関口まで迎えに来て目的地まで送り届け、再びステーションにUターンする、それが、モノとモノとがインターネットで直接繋がる**M2M＝Machine to Machine＝IoTの基本概念(入り口)**であり、そこからは、我々の行動や思考パターン、好み、顔色、感情等がセンサーや識別装置等を通して収集解析(Bigデータ&機械学習)され、そこで得られた基本データに、当日なら当日の臨時的・一時的・偶発的情報等の二次情報が加わり、それをもとにして、**マシーンが全体最適な経路を選択**する—という、自分の意思すらデータ化されてしまう世界—**個の量化と記号化、特定化が同時進行する社会**—が、正に指呼の間に迫っているのです。●一昔前のSFの様な話ですが、我々の行く手に待ち構えているのは、こういう世界なのです。利便性の飛躍的向上や効率化、ムダと重複の排除、コスト低減、生産性UP等、IoTによって齎される恩恵が、キラ星の如く並べ立てられ喧伝されていますが、コインの表面が光り輝く程、裏面の影も深くなる事を見逃してはならないと思います。「ナツメロに酔いしれている場合か。立ち止まって振り返ってる暇など何処にもない。一步でも他に先んじなければ、市場の変化に取り残されるぞ。」強迫観念が背中に張り付いて離れない時代—と、言い換えるべきかも知れません。ドイツが主体となり、世界をリードする次世代の製造業モデル構築を目指す「インダストリー4.0」。これはIoTを軸とする**第4次産業革命**であり、グローバル化の高波を乗り切ろうとする**EUの世界戦略の一環**と位置付けられています。出遅れた日本は、官民挙げてスマートグリッドだ、ペーパーレスだ、働き方改革だと騒いでいますが、その**お手本はインダストリー4.0**にあり、追いつく事は可能でも、追い越すのは容易ではないでしょう。●何れにしろ、この動きが身近な処でどう展開してゆくのか、参考までに、ある日の内科ドクターとの四方山話をご紹介します。●「来年当りから、マイナンバーに紐づけられた医療カード制度が始まる様ですね」「病歴や診察歴、服用している薬の効能・種類・数量、日常の体温、脈拍、血圧等の推移から現在の状態迄、個人の医療情報は病・医院窓口のカードリーダーで、瞬時に読み取られてしまう事になります」「診療行為や投薬の重複・ムダが省け、医療費が削減されれば、社会保障制度の維持にも繋がると云うのが政府の説明ですが」「問題は、この情報を誰が管理するかでしょう。GoogleやMS等は**ソフトの提供者**でもあり、**管理権も落札**となれば、彼らの**関係する保険会社にそれが流れてしまう恐れ**があります」「**米国の保険会社が、日本の医療保険制度に取って代わろうという動き**もあるようですね」「医師会は、何とか踏ん張って現行制度の維持を主張していますが、**近頃は外資の圧力を受けた政府筋に押され気味**で、そうなると3割負担の仕組みがどこまで持つか、大変心配しています」